

起業教育から 金銭の多面的価値を考える

～『株式会社 ナカちゃんプロジェクト』の
CD 販売を通して～

特賞

徳島県・阿南市立平島小学校

島村 孝

1 はじめに

若者の社会的自立の遅れや親への過度の依存、フリーターやニート問題が声高に語られるようになって久しい。若年層の離職率や自己破産なども、依然高い水準にある。全ては、義務教育段階での金融教育の不在や物質至上主義による金銭感覚のマヒに起因しているのではないだろうか。文部科学省では、こうした現状を憂い平成15年発足の「若者自立・挑戦戦略会議」の審議等でも、さまざまな提言を行っている。本来、キャリア教育の基盤には金融教育があり、健全な金銭感覚や消費生活能力を培うことは、社会と積極的に関わっていく力の源になるはずである。今回、子どもたちを校外の経済活動のまっただ中に置くことで、1人ひとりの起業意識や活動の見通し、投資を選択する感覚などを磨き、小学校中学年段階から金銭への健全な感覚を育てようと考えた。

本実践は、平島小学校4年生70名（2クラス）の、総合的な学習の時間での1年間にわたる取り組みである。

2 研究の仮説

- (1) 子どもたちの総意から株式会社を設立し、外部の経済活動の中に身を置くことで、企業活動の仕組みについて深く学ぶことができる。
- (2) 事業から得られた収益金の使途を通して、地域社会の一員としての人間関係の向上と、よりよい社会参加を果たすことができる。

3 研究の方向

- (1) 単なる金銭的な価値にとどまらず、社会的な認知や情報の価値など、対価として表れない領域までも実際の体験の中から学べるようにする。
- (2) 教育活動を積極的に公開し、情報発信の価値について考え、マスメディアの効果的な活用をはかる。
- (3) 利潤を追求するだけでなく、得られたお金を有意義に使うことの意味と大切さにふれさせる。

4 実践への序章

徳島県阿南市の一級河川那賀川には、あごひげアザラシの通称「ナカちゃん」が棲みついていた。酷寒の地に生息するあごひげアザラシが、なぜ、2,000キロも離れた温暖な四国に来たのかということ授業の中で調べる過程において、6月の上旬に、児童が北海道旅行で買って来たおみやげのパッケージに対して、給食中に「ごまあざらしというアザラシはいない。」「アザラシは、卵からは生まれない。」という素朴な疑問が起こった。少し迷いはあったが、お菓子を製造している北海道旭川市の会社へ、質問の手紙を送ることにした。10日ほどたって、学校に大きな包みが届いた。同封の社長直筆の手紙によると、『ごまあざらしサブレ』が、誤解を与えてしまったことへの反省と、それをそのままにしなかった学級への賞賛。今後、営業部員と共にパッケージの変更会議を開き、新しいパッケージデザインで生産するという約束も書かれ、商標登録証の写しまでもが入っていた。

そこから、子どもたちはいくつかの得難い学びを実感した。それは、①疑問をそのままにしないで、まっすぐに向き合い答えてくれた社長（大人）への感謝。②自分たちが提案したことが企業を動かし、お菓子のパッケージデザインが変わることになった結果への自信。③見知らぬ遠い北海道の人と心がつながった、新しい交流と学びへの意欲の高まり。④報道や情報発信の波紋の大きさなどである。反響はまだまだ続き、全国紙の徳島版と北海道版にもこの話題が同時掲載され、心温まる話題として道内を駆けめぐった。翌日には、北海道放送ラジオへの生出演。さらに

は、ヤフーのサイトにも取り上げられ、平島小学校ホームページへのアクセスが一時不能になるという事態まで発生した。また、全国の個人ブログにも多数引用され、情報化社会のすさまじさを実感することになった。

夏休みの登校日には、箱の裏側に子どもたちの質問をQ & A風に印刷した、新パッケージの『ごまあざらしサブレ』が90箱以上も学校に届けられ、子どもたちの喜びはいちだんと大きいものとなった。その時の様子は、日本テレビ系列『ザ・ワイド』の取材で全国で紹介され、お茶の間の明るい話題ともなった。直後、旭川空港の土産物コーナーでは『ごまあざらしサブレ』が売り切れになるという珍現象も発生した。

こうした追い風の中、小学生版『株式会社 ナカちゃんプロジェクト』を起業することで、子どもたちに経済の仕組みと金銭の価値を教え、地域に愛されているナカちゃんを永遠に残すための取り組みを、子どもの自主性を生かす形で実現しようと考えた。そのために、夏休み明けの市町村合併後、初めての音楽会参加とナカちゃんのことを作詞・作曲したオリジナルCDの発売も視野に入れ、次のように学習を進めた。

5 実践の歩み……平島小学校という認知と起業までの過程

(1) 「ナカちゃん」と「平島小学校4年生」というブランド力を高める情報戦略

鳴門市には、世界各地の名画を陶板に焼き付ける方法で、1,000点以上を展示している大塚国際美術館がある。そこでは、陶板の日が設けられ、その企画に選ばれれば、A4判で数十万円の費用のかかる作品を無料で陶板にしてもらえるとという情報をつかんだ。起業にはこの学習の社会的認知度を上げることが何よりも必要なため、応募した。ナカちゃんの姿をずっと残したいという子どもたちの熱意は高く評価され、全国から寄せられた100点以上の応募から、本学年のプランが採用された5点の中の1つに選ばれた。10月8日には、大塚国際美術館へ14名が代表として参加。陶板絵画の説明に続き、受賞セレモニーが荘厳なスティナホールでとり行われ、大きな情報発信ができた。

(2) CD発売に向け、専門家の歌唱指導で商品（歌唱）力を磨く改造戦略

夏休み前には、ナカちゃんの歌詞が完成。作曲した作品から公開オーディションで、1点を選ぶこととした。いくらナカちゃんのことや本学年の実践が認知されても、商品力がなければ販売の対象にはならない。しかし、学年には予算もない。そこで県教委の無料講師派遣事業を活用した。鳴門教育大学の門をたたき、担当部局から芸術系（音楽）教育講座の頃安利秀教授をご紹介いただいた。頃安先生の手直しと伴奏譜の完成を待って、合唱の練習が始まったが、子どもたちはナカちゃんの歌を自分たちで歌うんだという気概に燃え、派遣授業での実践的な指導も手伝って、短時間の練習で歌を仕上げるのができた。音楽会当日の阿南市民会館での反響は大きく、テレビや新聞にも取り上げられ、再び大きな情報発信をすることができた。

(3) 『(株) ナカちゃんプロジェクト』の設立……適性を考えるキャリア教育と会社の経営戦略

いよいよ販売に向けて、プロジェクトはスタートした。モノを作り、販売するには「作る」「知らせる」「売る」という3つの段階が必要だと考え、仮想の株式会社を設立。子どもたちは話し合いで、3つの事業部を編成することになった。それは、次のようなキャリアの特性を秘めていた。

- ①営業部……販売にあたっての渉外を受け持つ仕事で、人と話をするのが得意で積極的・社交的な人。
- ②宣伝部……CDのことを多くの人に知ってもらうための販売促進活動に努め、ポスターやチラシなどの制作を主に担当する。絵を描いたり、企画を考えたりするのが好きな人。
- ③製造部……CDの製品作りを担当し、根気があり配慮のある行動も求められ、丁寧な作業で不良品を出さない。こつこつと陰ひなたなく働く人。

まず、全員で販売会議を開き、自分の適性を勘案して所属を選んだ。いわば、10歳のハローワークである。適性の話を聞く中で、部署を変更する子もあったが、自分の長所について、1人ひとりがよくわかっていることに感心させられた。そこでは学習を通して、友だち関係にひきずられ

ない確かな選択力が働いていた。

社長は置かず、6名の役員会が最高意思決定機関となる。各部から2名ずつの部長と4名の会計を選出し、出資金は1人200円とした。校長先生にも1万円の出資を募るという全体計画の骨組みも話し合った。

営業部は早速、校長先生に事業計画を説明し資金の調達に成功したが、もしも会社が、赤字を出して行き詰まると校長先生からの出資金は返せないし、自分たちにも返ってこない。自然と話し合いは熱を帯び、どんな勉強よりも真剣なものになった。また、踏み入れたことのない領域（自分たちが製造したものを販売し、その対価としてお金を受け取る行為）に、子どもたちにも少し戸惑いを感じられたが、CDの販売に関する話し合いの中では、

- ①何枚ぐらい売れるかわからないので、予約数を見てから、製造数を決めよう。(生産計画)
- ②何枚作れば(売れば)利益が出るのか、その損益分岐点は何枚なのか。(投資と在庫管理)
- ③小学生らしい「かわいらしさ」と「商品としての完成度」をどう調整するか。(性能対価格比)
- ④定価をいくらにするか。(現実の商品的価値や魅力と競争力)
- ⑤どこかで売らせてもらうのに手数料がいるのではないか。(手数料・委託料という約款と社会のルール)
- ⑥材料(ケース・ディスク・インク・用紙)などはどこから買えばいいか。(原価を抑えることと品質の確保)
- ⑦売れた利益をどうしていくのか。(お金の魅力と魔力 社会的責任 社会的貢献 総合的な学習からの発展)
- ⑧会社をいつまで続け、いつまで売るのが適切か。(企業の存続と教育課程・小学校や学年というワク)

現実に根を生やした根拠のある議論が、発言をより深め、子どもたちの学びと育ちを実感することにもなった。

それに先立ち、CDのレーベルも決定した。手作り感を生かすため、ホワイトの書き込み可能なCD-Rの表面に、ナカちゃんのオリジナルのデザインを印刷するのである。事前の学習で、全員がデザインしたものを投票で6点選出。販売場所についても、多くの商店や事業所があげられたが、CDの生産量にも限りがあるということで、那賀川道の駅と阿南市に本拠を置くH書店(県内7店舗)に決定された。

営業部の代表は、まず阿南市長に販売の挨拶と推薦文の依頼をするために市役所を訪れ、続いてH書店本部へ。製造部は、早速CDの制作にあたったが、予約だけで300枚がほぼ完売したので、12月には4回の休日出勤をすることにもなった。宣伝部はポスターやチラシの作成を着々と進め、それを営業部の社員が交渉し、市内を中心に、さまざまな事業所に貼らせてもらった。CD1枚の販売価格は500円。発売日は、12月9日と決定された。それに先立ち市内3つの新聞店から、2,300枚を超える子どもたちの手作りの折り込みチラシも入った。役員会で社員(4年生)の1枚目の購入価格は、社員割引で定価の2割引の400円とされた。

この動きに報道機関も敏感に反応し、地元四国放送やNHK徳島放送局はもちろん、NHKの東京ラジオステーションから、夕べの『列島便り』の中で、担任への電話インタビューと共に全国に向けて『ナカちゃん 君は』の曲が流れた。発売直後から、関東方面からも注文の問い合わせが届き、CD販売は好調にスタートを切った。

6 販売益をどうしていくかという課題……達成感とその社会的責任を果たすために

合唱曲CD『ナカちゃん 君は』は、予想以上の販売を記録し、発売1ヶ月で600枚を突破し

た。2月上旬には、30万円近い売り上げと共に4年生の仮想会社の預金口座には17万円近い利益が生まれた。地域からの温かい声援も、子どもたちにはうれしい限りであった。全体会を開き、用途についても活発に話し合われた。儲ける以上に難しいことは、その使い方である。個人や家庭を考えても、使い方は千差万別。価値観や年齢・性別・人生観などでも違い、この学習の成果と同時に金の魔力が子どもたちの学びを映し出す鏡となる。

そのため、4年生という発達段階では少し難しいとも考えたが、15万円を念頭（2万円は予備費）に、役員会の原案を元に予算案を立てさせた。自分たちに使うのか、ナカちゃんのために使うのか、学校のため、それとも地域社会のために……。話し合いは、再び盛り上がった。役員会の原案で練りあげたプランを下敷きに慎重に話し合い、次のような用途が決定された。

（1）車椅子を社会福祉協議会に……おじいちゃん・おばあちゃんの第2の足のためにお金を

子どもたちが話し合っ出て出したひとつめの答えは、車椅子の寄付であった。自分たちのことをいちばん支持してくれた地域のおじいちゃん・おばあちゃんたちの役に立ちたいという素直な気持ちが反映されていた。代表4名が、阿南市の社会福祉協議会を訪れ、車椅子3台を寄付することになった。車椅子の値段もインターネットで検索し、市価よりも格安に調達することができた。阿南市社会福祉協議会の事務局に、電話でメーカー名を尋ね、信頼できるメーカーのものであるかという確認をとることも忘れなかった。市場原理だけでなく、商品の見きわめもできる子どもたちに育った姿がそこにはあった。

（2）感謝のつどい……ナカちゃんケーキをデザインし、お世話になった方を招待するためにお金を

子どもたちは、2月末にお世話になった方全員を「感謝のつどい」に招待した。学習が多くの方の助力で実現できたことを理解していたからである。そこでは、ナカちゃんを懐かしみ、自分たちがデザインしたケーキを届けてもらおうという案が浮上した。全員がデザインした案を市内の洋菓子店に持ち込み、選ばれた5種類のケーキ100個を届けていただいた。予算の関係から、250円までで実現できるケーキという条件をつけることも忘れなかった。いくらおいしくても、材料費がかさむ豪華なものは予算内で実現することはできないという健全な金銭感覚も、ちゃんと働いていたのであった。他学年には、お礼のチョコレートを届けた。

最後に『ナカちゃん 君は』の合唱を聞いていただき、感謝状を贈呈した。特筆すべきは、今回の学習のきっかけになった北海道の社長さんを飛行機で招き、その交通費の半額を負担しようという意見が出たことであった。

（3）歌碑の建立へ……ナカちゃんがいたことを後世に伝えるためにお金を

阿南市の特別名誉市民ともなっていたナカちゃんは、残念なことに、夏休みに中州付近で亡くなってしまった。誰の心にもCDの販売目的の第一には、ナカちゃんの追悼という意味が含まれていた。しかし、川原には、いろいろな制約があるため、アンケートから役員会で意見を集約し、学校の中庭にナカちゃんの歌碑を建立することになった。幸いなことに、石材店を営む保護者の好意により、市価の数分の1の費用で御影石製の縦1m×横1m43cmの立派な歌碑を建立することができた。子どもたちは、ナカちゃんのことをずっと後世に伝えていきたいという地域の人々の気持ちも、きちんと受けとめていたのであった。

（4）骨髄バンクへの寄付……命の輝きを取り戻す力にお金を

ナカちゃんの死に直面した時、講師としてお招きしたエッセイストの息子さんが白血病と闘う中、生の証を残すため死の直前まで無菌室のパソコンで絵を描き続けた生き方に、子どもたちは大きな衝撃を受けた。その話に感動した子どもたちは、AKIRAさんの遺志を継ぎ、骨髄バンク推進連絡協議会にも募金を行った。

（5）企業の経済論理を学ぶ……がんばった自分たちへの配当にお金を

『(株)ナカちゃんプロジェクト』の運営は軌道に乗り、会計担当者の報告から、出資金の回収はもちろん、1人ひとりに配当金も出せることになった。一口200円の出資に対して300円の配当である。出資金に対して1.5倍の配当ということは、どんなにすごいことであるかということも、新聞の株式欄や企業の配当例などを提示し、解説した。最後に、会社がなぜ健全に経営できたのかという要因を多面的に分析し、総括も行った。配当金300円は、文具の詰め合わせとなって配

られたが、1人ひとりの自信に満ちた笑顔が印象的であった。

7 仮説の検証

この企業経営を模した金融教育で、子どもたちは予期せぬ多くの学びを得た。起業家としての責任はもちろん、何よりもその活動（儲けることや支出すること）の外部評価として、地域からの厚い信頼と温かい承認を得られたことが、指導者としてもうれしい。会社の所属部署でもお互いに助け合うことで、友だちの人柄の「ちがい」と「よさ」を自然に受け入れることもできるようになり、人間関係の劇的な改善も見られた。かつて3年生まで不登校に苦しみ、年間100日以上を欠席していたAくんは製造部長に選出され、みんなの信頼を得て始業式から修了式まで1日の欠席もなかった。そのうえ12月には、CDの製造で休みの日まで学校に来るようになり、不登校もいつの間にか完治してしまった。彼は4年最後の日、学年代表として壇上で堂々と修了証を受け取った。

8 おわりに

ナカちゃんというあごひげアザラシとの出会いは、偶然であったかもしれない。しかし、本校では昨年度6年生が学校近くの出島海岸でワカメを養殖し、それを地域に販売したり、一昨年には5年生が、廃油をリサイクルした石けんを販売。広葉樹の苗を購入して那賀川の上流に森を作るために植林したりという、学校を挙げた金融教育にも取り組んできた。そういう背景も、この実践の成功の裏にはあると考えられる。北海道の社長さんからは、パッケージを変更する金銭的な犠牲を払っても、消費者に誤解を与えないことを大切にする企業家の精神を学んだ。

4年生の最後で終了するはずだった、このプロジェクト＝CDの販売は、地域の熱いラブコールが続き、現在も那賀川道の駅での販売が続いている。学年がひとつ上がった子どもたちは、それで得られたお金を、学校をよくしていくための基金にしようと話し合っているようである。お金を儲けることの大変さとやりがい、責任。そしてお金で成し遂げられる力の確認など……。これからも、子どもたちのさらなる成長を願ってやまない。



『ごまあざらしサブレ』
子どもたちがお菓子の名前と卵からアザラシが生まれているのがおかしいと指摘したものを。



北海道放送のラジオインタビューに答える。



社長さんから届けられたお菓子を前に笑顔。



送付された90箱以上のお菓子。



ナカちゃんの4番までの歌詞に曲をつけてできた作品を、みんなで選んでいく。



那賀川堤防の死んでしまったナカちゃんの祭壇に手を合わせる子どもたち。



全国 100 点以上の応募から、5 点に選ばれ、大塚国際美術館システィナホールで陶板絵画の受賞セレモニーに出席した代表の子どもたち。



鳴門教育大学の頃安先生に、歌唱指導をしていただく。



阿南市に合併されて、初めての音楽会。子どもたちの歌にも力がこもる。ナカちゃんもいっしょに出る。



アマチュアミュージシャンの榊原先生をお招きして、音楽室でのCD録音。いつももまして緊張していたのは担任だけで、子どもたちは、元気いっぱい。機材もマイクもシンプルなものでもピアノ伴奏の上に合唱の声を重ねていく。テレビや新聞の取材にも慣れて余裕の表情。





会社の3つの事業部で、自分には何が合っているかを選択していく。



CDのラベルを提案し、どれがいいかをみんなで決めていく。目が真剣そのもの。



パソコンで、歌のデータを書き込んでいく製造部の作業。根気がいります。



ケースにジャケットになる紙を折ってはさんでいく。非常に細かい作業である。



プリンターで、CDの表面に、ナカちゃんの6種類のデザインを印刷していく。休日出勤の子どもたち。



仕上がったCDを種類ごとに、箱詰めしていく。透明のフィルムをかけるのが大変に難しく、破れてしまうこともある。箱は給食のヨーグルト。



ポスターを描く宣伝部の子どもたち。みんなで力を合わせる。



市長さんを表敬訪問し、CDへの推薦文をお願いする。発売を前に、役員と営業部は積極的に市長室へ出向く。



書店の担当者の方にCDの依頼を。表情が真剣。



作っても、作っても、売れていく。12月の3回目の作業。机の上のケースの山が、膨大な作業量を示している。



道の駅へ会計の担当者が売上金を受け取りに行く。CDは、バーコード認証で管理されている。



ナカちゃんケーキのデザイン審査をする。



発売日、道の駅へ朝一番にCDを買いに来ていただいたおばあちゃんたち。



命の学習のまとめで、ゲスト・ティーチャーに息子さんが白血病と最後まで闘ったということをお話していただき、それを聞いて涙いっぱいの子どもたち。



CDの販売益で買った車椅子を寄付する前に、体育館で実際に車椅子に乗り、人権についての学習をする。真剣なまなざしが印象的。

阿南市社会福祉協議会へ車椅子の寄付に。贈呈の表情が自信にあふれている。



みんなでデザインしたナカちゃんケーキを、ゲストに食べていただく。さて、どんな味だろうか。色とりどり5種類100個。これもCDの売れたお金があったから。



ゲストの先生方と記念撮影、感謝状は輝いているかな。今までの学習ができたのも、先生方のおかげだね。





北海道の社長さんから、メモ帳をいただいて……
笑顔いっぱいの子どもたち。
人として、どうあらねばいけないかを教えてくれました。



CD最後の特別セール。限定数を特価で販売することになる。
児童玄関で、陳列の用意をしている子どもたち。



中庭に建立した合唱曲「ナカちゃん 君は」の歌碑とともに。
女子のひとり、「自分の将来産んだ子どもにまでじまんしたい」と笑顔で話す。



感謝の会に出席できなかったゲスト・
ティーチャーが、歌碑を見学に来られて。

H書店グループ売上調査

平成 19 年 3 月 7 日現在

平島小学校 島村先生

タイトル『**ナカちゃんCD**』500円(税込) ※お世話になります。最終の販売結果です。なお、返品商品がまだありますので本部の方へお越しください。

店名	入荷数	入荷数	入荷数	入荷数	入荷数	合計
ナカちゃんCD		12月6日	12月11日	12月22日	2月6日	3月7日
入荷数		42	96	95	56	
累計		42	138	233	289	
A店	入荷数	6	10	15	0	31
	(残数)	(0)	(2)	(17)	(17)	(16)
B店	入荷数	6	25	18	20	69
	(残数)	(0)	(1)	(3)	(23)	(19)
C店	入荷数	6	15	15	3	39
	(残数)	(1)	(11)	(16)	(19)	(18)
D店	入荷数	6	10	12	18	46
	(残数)	(2)	(5)	(6)	(24)	(23)
E店	入荷数	6	6	9	0	21
	(残数)	(2)	(4)	(13)	(13)	(13)
F店	入荷数	6	6	9	0	21
	(残数)	(2)	(6)	(15)	(15)	(14)
G店	入荷数	6	24	17	15	62
	(残数)	(0)	(11)	(6)	(21)	(21)
合計	入荷数	42	96	95	56	289
	(残数)	(7)	(40)	(76)	(132)	(124)

※3枚不良

最終売上枚数
162枚です

情報発信の足跡 (一部抜粋)

テレビ編

放映日	放送局/番組名	放送内容等
5月28日	NHK 徳島放送局 ほっとイブニング徳島	平島小学校の児童が、ごまひげアザラシのナカちゃんのことを質問するために、徳島動物園の佐藤学芸員を招いた授業が行われた。
8月24日	日本テレビ(全国系列局) ザ・ワイド	ごまあざらしサプレのパッケージの誤りを指摘した徳島県阿南市の平島小学校4年生に新パッケージのお菓子が90箱も届けられた。
10月17日	四国放送 フォーカス徳島	鳴教大教授・頃安利秀先生より、平小4年生が「ナカちゃん 君は」の歌唱指導の授業を受ける。
10月26日	NHK 徳島放送局 ほっとイブニング徳島	阿南市小学校音楽会で、平島小学校4年生が作詞作曲の「ナカちゃん 君は」を披露する。
10月26日	四国放送 フォーカス徳島	阿南市小学校音楽会で、平島小学校4年生が作詞作曲の「ナカちゃん 君は」を披露する。
11月2日	四国放送 フォーカス徳島	ナカちゃんの1周年追悼集会で平島小4年生児童が、科学センターで「ナカちゃん 君は」を歌う。
11月10日	NHK 徳島放送局 ほっとイブニング徳島	平島小学校児童が、音楽室でゲスト・ティーチャーを招いて「ナカちゃん 君は」のCDの収録をする。
11月24日	NHK 徳島放送局 ほっとイブニング 徳島県南特集	県南の市町村を特集する番組の中の阿南市編。平島小学校の子どもたちが「ナカちゃん 君は」のCDに6種類のラベルをデザインし、近く販売する。「ナカちゃん 君は」の1番と5番を合唱する。生中継
12月9日	NHK 徳島放送局	ナカちゃんのCDが発売され、今日から那賀川道の駅や阿南市のH書店で販売。
12月21日	日本テレビ(全国系列局) ザ・ワイド	あごひげアザラシ、ナカちゃんは死んでしまったけれど、地元(徳島県阿南市)の小学生がナカちゃんをしのぶ歌を作詞・作曲し、それをCDとして発売した。年内には700枚が売れる勢い。
12月27日	四国放送 フォーカス徳島	ナカちゃんの特集で、平島小4年生がナカちゃんの死後、CDを発売した。

新聞編

掲載日	新聞社名	記事の見出しと内容
6月29日	徳島	ナカちゃんの生態を学ぶ ～平島小 学芸員が授業～
7月8日	朝日	アザラシは卵から生まれません 児童の指摘で菓子包装改善 ～「ナカちゃん」研究の成果出る
7月12日	毎日 毎日(北海道)	アザラシ卵から生まれないよ!? 菓子箱イラスト間違い指摘 ～北海道の製造元社長から返事とお礼～
8月18日	毎日	お礼に改良パッケージ90箱 北海道の製菓会社が阿南・平島小児童へ ～箱に児童の質問と回答～
8月31日	毎日	那賀川でナカちゃんしのぶ ～夏休み終わり 阿南・平島小児童 花と線香手向け～
8月31日	徳島	ナカちゃんバイバイ ～園児ら河川敷で手合わせ
9月18日	毎日小学生	ナカちゃんて勉強したんだもん! ～菓子包みの間違い正す ※ぼくの学校 私の学校コーナー
10月9日	読売	ナカちゃん陶板に ～平島小(阿南)児童の思い大塚美術館に届く～
10月9日	毎日	ナカちゃん陶板に～大塚国際美術館公募で5件決定～
10月9日	朝日	「ナカちゃん」の生の証し陶板に 大塚国際美術館が実現 ～阿南・平島小 児童の願いかなう
10月9日	徳島	ナカちゃんの姿陶板に～大塚国際美術館
10月17日	徳島	みんなのアイドル那賀川ナカちゃん 思い出つづり歌に平島小児童 26日、市文化祭で披露
10月18日	徳島	「ナカちゃん」歌おう 鳴教大教授阿南で指導
10月18日	毎日	「ナカちゃん」の思い出残そう 平島小児童がオリジナル曲 大きな声で練習 鳴門教育大教授からレッスン受ける
10月21日	朝日	「ナカちゃん 君は」～児童創作歌披露へ阿南・平島小～
10月27日	徳島	平島小 ナカちゃんの歌を初披露 ～阿南で小学校音楽会～
11月1日	朝日小学生	ナカちゃんと歌でお別れ ～徳島県阿南市平島小の4年生が作詞、作曲
11月4日	徳島	まだ信じられない 涙が出そう… ナカちゃんしのび合唱・清掃～ファンら胸に思い刻む～
11月4日	毎日	アザラシのナカちゃん ～思い出の写真展～阿南
11月4日	朝日	ありがとう「ナカちゃん」多彩な催しでしのぶ ～阿南市那賀川で市民ら
11月4日	スポーツ報知	ナカちゃんの歌を天国のナカちゃんへ
11月8日	読売	「ナカちゃん 君は」CDに「第2の校歌ずっと歌って」阿南市の児童作詞・作曲
11月11日	徳島	ナカちゃんの歌CD化 ～平島小で収録 児童「歌い継ぎたい」
11月11日	毎日	「ナカちゃん 君は」をCDに ～阿南・平島小児童が作詞作曲 元気いっぱい歌声録音
11月12日	朝日	ナカちゃんとの交流 児童が歌に ～阿南・平島小4年生 CD制作
12月8日	徳島	ナカちゃんかるた ～絵に思いこめ17日に作る会 阿南～
12月10日	徳島	「ナカちゃん」CD発売 ～平島小児童が作詞・作曲
12月13日	朝日	ナカちゃんCD好評 ～阿南の道の駅や書店で販売中～
12月15日	毎日	歌声で追悼アザラシのナカちゃん CDが完成、販売 阿南・平島小4年生が作詞作曲 ～愛らしい写真もパッケージに
12月18日	徳島	ナカちゃんの思い出 絵札に 児童がかかるた作り 阿南
12月18日	朝日	ナカちゃん、カルタでしのぼう 阿南 児童50人、絵札描く
12月30日	日刊スポーツ 日本経済 四国 地方紙(全国) ※共同通信配信	徳島県平島小4年生 CD発売 ～ずっと忘れないよ～

ラジオ編

放送日	放送局/番組名	放送内容等
7月12日	HBC(北海道放送) カーナビラジオ午後1番	北海道から遠く離れた徳島県阿南市の小学生から、北海道のお菓子会社にパッケージのことで質問の手紙が寄せられ、社長さんがパッケージを変更すると約束をしたという内容。(北海道では社長と児童の対談が、生放送された。)
7月中旬	各地の民放ラジオ多数(全国)	小学生が、北海道のお菓子会社に質問の手紙を送り、それをお菓子会社がまっすぐに受け止めパッケージの変更をしたという内容。
8月31日	HBC系列(全国) 全国の民放	各地の特産品やみやげを紹介する番組で、北海道旭川みやげのごまあざらしサブレは、徳島県阿南市の平島小学校がアザラシは卵から生まれないなどの質問をしたものであるという内容。
9月30日	NHK第1東京 各地の話題(全国)	徳島県の阿南市の平島小学校が、夏休み前にナカちゃんのことを4番までの歌詞で作曲していたが、死亡により5番を加え、ナカちゃんの歌を作った。
10月14日	NHK第1松山放送局(全国)	徳島県阿南市のアイドルとなっていたナカちゃんが死亡したこと、平島小学校の児童がナカちゃんの歌を作った。それが、10月26日にある徳島県阿南市の音楽会で発表される。
10月18日	FM徳島 スマイルモーニング	ナカちゃんのことを学習している、阿南市の平島小学校の4年生が鳴門市にある大塚国際美術館に、ナカちゃんを陶板に残して欲しいと応募し、それが全国100点以上の中から採用された。陶板絵画は2000年以上上色あせない。
12月12日	NHK第1 ラジオステーション列島便り(全国)	徳島県阿南市の平島小学校が、ナカちゃんのCDを制作し発売する。CD発売の経緯と、子どもたちが営業部・宣伝部・製造部に分かれ、意欲的に販売の準備をしているという担任への電話インタビュー。1番と5番が流れる。
12月26日	NHK第1松山放送局 四国編(全国)	全国を各ブロックに分け、四国ブロックの1年をふり返る中で、徳島県阿南市平島小学校の児童が、CDでナカちゃんの歌を作り発売した。その話題の中で5番をBGMとして使用。